

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

授業担当者

所属/職名：教育学系・准教授

氏 名：内ノ倉 真吾

授業科目名	理科教育特講
研修先(国・地域) 滞在地	ドイツ連邦共和国、オルデンブルク
研修期間	平成29年2月18日(土) ~ 平成29年2月28日(火)
<p>〔研修の成果〕</p> <p>(1) 日本とドイツの学校・授業・子どもの実際を比較・考察する機会 中等学校(オーバーシュレ、ギムナジウム)2校を訪問して、合計3時間程度の理科および技術科の授業を見学することができた。学生は、日本の教室環境、授業方法、子どもの様子と比較しながら、ドイツの学校・授業・教師・子どもに見られる特徴を考察することができていた。また、担当教師にも質問する様子が見られた。</p> <p>(2) オルデンブルク大学の学生との交流 オルデンブルク大学の学生が、学校訪問や大学の施設見学の案内役を果たしてくれ、言語的・心理的なサポートが得られた。また、滞在中に、2回の交流イベントを企画してくれ、楽しく交流できた。なかでも、北部ドイツ地方の伝統的なイベント“kohl tour”や伝統料理“Grünkohl”の提供があり、日本人学生は非常に貴重な経験ができた。</p> <p>(3) ドイツの歴史的・文化的雰囲気への体験 プレマハーフェン、ブレーメン、ベルリンなどの諸都市を訪問して、ベルリンの壁などの歴史的・文化的な施設やまた、諸都市に位置する教会などの宗教的・文化的な施設を見学した。これまで日本で教科書や映像を通じてのみ学習してきた事実に基づく知識とその背景にある歴史的・文化的な背景を結び付けることができたようであった。</p> <p>(4) オルデンブルク大学との交流発展の契機 今回は、オルデンブルク大学の教授・准教授・博士研究員2名に協力してもらい、各所に訪問することができた。また、各教授とも日本・ドイツの学校教育の現状に関する意見交換をする機会も得られ、今後も相互の大学から学生や教授の派遣を継続させたいとの意思を確認することができた。加えて、さらなる交流の発展に向けた各種の助成金の獲得や研究テーマの発掘に関する話し合いを行うことができた。</p>	
<p>〔今後の課題〕</p> <p>(1) 学習体験の充実のための語学力と教養的知識の修得 事前に、日本に滞在するオルデンブルク大学の学生と交流を図り、会話力(主として英語)の養成を図ってきたが、実際的には十分とは言えず、学習体験を充実させるために、語学力や背景的知識の養成が必要だと感じられた。</p> <p>(2) 教育学部生の中長期的研修の実現 ドイツの大学からは中長期的に滞在する学生を期待されており、教育学部でどのように実現できるか検討したい。</p>	